

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 80代	慢性胃炎 (内臓下垂症, 骨粗鬆 症, 上気道炎)	10mg 77日間	血小板減少 投与開始日 : 慢性胃炎のため, 本剤10mg朝投与開始。 アルファカルシドール, L-アスパラギン酸カルシウ ム, オクトチアミン・B ₂ ・B ₆ ・B ₁₂ 配合剤も投与開始。 投与15日目 : 上気道炎症状で抗生物質(レボフロキサシン, セフ トリアキソンナトリウム)を投与。 投与17日目 : 抗生物質により上気道炎症状は改善。 投与29日目 : 食事摂取少なく, 食欲低下のため, 胃透視で慢性 胃炎あり。本剤継続。 投与43日目 : 上気道炎症状で抗生物質(レボフロキサシン)を使 用。 投与68日目 : 排便時に血が混入。 投与71日目 : 直腸鏡で内痔核(+)でプロメライン・酢酸トコフェ ロール配合剤を使用。口腔粘膜下に血腫多数。 投与77日目 : 口腔粘膜下に血腫増悪と口唇部も出血あり。血液 (投与中止日) 検査で血小板減少判明し入院。本剤の投与中止。 中止17日後 : 血小板数が10万台に戻り, 状態も良好。 中止22日後 : 回復。	企業報告

臨床検査値

	投与92日前	投与3日目	投与77日目(投与中止日)
白血球数(/mm ³)	4000	4600	4600
赤血球数(×10 ⁴ /mm ³)	370	385	370
ヘモグロビン(g/dL)	12.2	12.4	11.8
ヘマトクリット(%)	37.5	37.9	35.5
血小板数(×10 ⁴ /mm ³)	18.6	19.5	0.7

併用薬: アルファカルシドール, L-アスパラギン酸カルシウム, オクトチアミン・B₂・B₆・B₁₂配合剤, レボフロキサシン, セフト
 リアキソンナトリウム, 六君子湯, 小青竜湯, 葛根湯, レバミピド, アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用		備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置		
2	女 70代	逆流性食 道炎 (びらん性 胃炎)	20mg 19日間	急性腎不全 投与開始日 : 逆流性食道炎の診断の下, 近医より本剤20mg処方。 その後, 吐気, 全身倦怠感等も出現し, 再度近医受診。 投与15日目 : テプレノン, ドンペリドン追加投与。その後も全身倦怠感継続し, 尿量の減少も自覚。顔面の浮腫等も出現。 投与19日目 : 近医より他院へ紹介。他院での採血で, 高度の腎障害とアシド (投与中止日) ーシス, 及び血小板減少, 白血球減少を示していた。当院紹介 受診。その時点で嘔気, 全身倦怠感等の尿毒症症状あり。内服 薬すべて中止。 中止2日後 : 血液透析を開始。 中止5日後 : 白血球減少症は回復。 中止6日後 : 血小板減少症は回復。 中止12日後 : BUN47.7mg/dL, 血清クレアチニン4.2mg/dL(血液透析前)。 中止13日後 : 血液透析を重ねるごとに, 全身倦怠感や嘔気等の尿毒症症状 は消失。 中止17日後 : 血清クレアチニン3mg/dL台となり, 血液透析3回/週から2回/ 週へ。自尿少しずつ出てきた(500mL/日程度)。 中止24日後 : 血清クレアチニン1.7mg/dLとなり, 血液透析離脱。この頃より自 尿1000mL/日位へ(点滴1日1000mL開始)。 中止31日後 : 血清クレアチニン1.3mg/dL。点滴も終了し, 尿毒症症状の出現 なく, 自尿約1000mL/日で安定してきた。急性腎機能低下は回 復。 中止35日後 : 退院。	企業報告	

臨床検査値

	投与19日目 (投与中止日)	中止 1日後	中止 5日後	中止 9日後	中止 12日後	中止 14日後	中止 24日後	中止 31日後
BUN(mg/dL)	117.8	128.0	57.6	45.2	47.7	40.4	24.0	14.3
血清クレアチニン(mg/dL)	9.9	10.0	7.9	5.3	4.2	3.4	1.7	1.3

併用薬: テプレノン, ドンペリドン